

## 西四国観光ネットワーク「ルーラルポケット」に関する一考察

小泉勇治郎（松山東雲女子大学）

キーワード：ルーラルツーリズム、リゾート開発、オルタナティブ・ツーリズム

## 1. はじめに

中曽根内閣時に閣議決定された第4次全国総合開発計画の目玉は、民活法（民間事業者の能力活用による特定施設整備促進に関する臨時措置法）の地方版ともいえるリゾート法（総合保養地域整備法）であった。

愛媛県も1990年6月29日、「えひめ瀬戸内リゾート開発構想」が全国41の地域のなかで24番目に国土庁より承認を受けた。<sup>1)</sup>開発基本方針はマリーナ、リゾートホテル、ゴルフ場などの建設であった。しかしながらこれらの計画に対して、1989年「ゴルフ場とリゾート法を考える愛媛県民の会」が結成され、リゾート開発反対運動が始まった。やがてバブルの崩壊によってリゾート計画の中止、縮小がなされた。<sup>2)</sup>例えば、すでに営業をしていた愛媛県越智郡岩城島の高級リゾートホテルは経営が悪化し、閉鎖を余儀なくされた。現在は建物は廃墟と化している。

2000年9月、四国にある大型テーマパーク「レオマアワールド」もリゾート法によって承認を受けオープンしたが、入場者減のため閉鎖のやむなきに至った。また、愛媛県南部宇和島市と南北宇和郡の一市五町一村を対象地域にし、300億円余を投資した南予レクリエーション都市整備事業の見直しも始まった。<sup>3)</sup>

愛媛県の第5次愛媛長期計画(2000年3月)「新しい愛媛づくり指針」の中で、観光・レクリエーション産業の進行施策が説明されているが、「愛媛瀬戸内リゾート開発構想」については、わずか3行で述べられており、しかも構想については経済環境の推移を見極めながら進めるという極めて消極的な姿勢を見せている。<sup>4)</sup>

1992年、「新しい食料・農業・農村政策の方向」（農林水産省公表）のなかで地域全体の所得の維持・確保についてグリーン・ツーリズムの振興を図ることが明記された。<sup>5)</sup>また、農水省構造改善局より「グリーン・ツーリズム研究会中間報告」が発表され、現在ではリゾートという言葉に代わって「グリーン・ツーリズム」という言葉が使われるようになってきた。

そういった中で、1998年11月愛媛県の森の国ホテルや高知県のホテル星羅四万十など西四国の5公共観光施設と1民間ホテルが地域ネットワーク「ルーラルポケット」を発足させた。このネットワーク構想は加盟施設の立地条件、施設規模などから判断すると、リゾート開発の次にくるグリーンツーリズムの流れを汲んでいるものと思われる。

「公共・民間を問わず、21世紀に向けた新しい観光の形態を構築し、会員相互の営業活動情報の交換及び連絡協調を図り、会員並びに各々の地域の観光事業の健全な発展に寄与すること」を目的として設立された。設立当初6施設で始まったが、2000年4月には新たに2施設が加わり、現在8施設になっている。本研究ではルーラルポケット構成施設への質問紙調査と訪問面接を行い、リゾートに代わるものとしての新たなツーリズムの可

能性を探ることを目的とした。

## 2. 研究の方法

リゾート法の失敗とバブル崩壊によるその後の新たなツーリズムについて、「ルーラルポケット」を設立した加盟施設へのアンケート（8施設への郵送法による質問紙調査）を実施するとともに、実際に施設に出かけ担当者とのインタビューを実施した。

## 3. 結果及び考察

まず、調査対象の施設の概要について表1に示す。

表1 施設の概要

施設名	運営形態	開業日	客室数
ケーオーホテル	株式会社	1991年	20
内子フレッシュパークからり	内子町	1996年	—
星羅四万十	KKしまんと企画 (第3セクター)	1994年	14
森の国ホテル	(財)観光公社	1991年	15
花の森ホテル	町交流促進センター	1997年	18
ベルリーフ大月	(財)ふるさと振興公社	1996年	20
たかの子温泉	株式会社	1966年	25 + 25
ホテルクレメント宇和島	JR	1998年	82

1998年11月19日、当初6施設（5公共観光施設、1民間ホテル）で次の事業を行うことで発足し、2000年4月からは2施設が新たに加わった。

- (1) 各々の文化を尊重しつつ、地域全体の情報発信を行う。
- (2) 各施設の情報をオンタイムで収集し、一元化を図る。
- (3) 消費者ニーズに合った多様な企画を立案する。
- (4) 従業員の共同研修や、人材交流を積極的に行う。
- (5) 企画・営業に関わる活動について、連携によるスケールメリットを生み出す。
- (6) その他、本会の目的を達成するため必要な事業を行う。

小さな公共施設でも、一緒になって全国に向けてPRすれば大きな効果を上げることができるというのが「ルーラルポケット」設立の趣旨であり、今までの観光と違い、田舎を訪れ袋いっぱい楽しい思い出を持ち帰ってもらおうという願いがある。

表2 各施設客室稼働率の推移

	ケーオーホテル	星羅四万十	森の国	花の森	たかの子温泉
1997年度	20.9	55	73.5	—	52.4
1998年度	19.4	56	76.3	44.3	55.9
1999年度	30.3	54	75.0	53.0	68.9

(単位：%)

アンケートについては上記5施設から返信が来た。ホテル経営の指標である約60%の稼働率を超えているところは2施設しかない。しかしながらケオホテル、花の森ホテルについても「しまなみ海道」開通の効果が稼働率アップにつながっているように思われる。また、各施設とも他の施設にはない、特色を持っており（たとえば、温泉、溪谷美とフランス料理、四万十川など）今後ルーラルポケット構想が持続していけば、十分な集客アップが見込まれる。

平均客単価（一泊二食）は、それぞれの施設平均で8千円から1万5千円の範囲であった。民間施設であるケオホテルが客単価が一番高かった。これは、他施設に比べて高客室料金の影響が出ているものと思われる。表3に各施設の客室・食事料金を示している。

表3 各施設客室料金・食事料金

	ケオホテル	星羅四万十	森の国	花の森	鷹の子温泉
宿泊料金	7500～	**	4000～	5000	4000～
一泊二食	**	10000～15000		9500～	7000～
食 事	各自		6000～ (夕・朝)		
備 考	税・サ別	税別・サ込	税別・サ込	税別・サ	税別・サ込

(単位：円)

平均宿泊数については、すべてに施設において一泊二日であった。グリーンツーリズムにおける滞在型宿泊形態からはまったく違う結果が出た。各施設の持つプログラム施設の限界、あるいはプログラムソフトの提供の工夫のなさなどが原因として挙げられるが、沖縄などのパック旅行ではない、つまり自前の旅行になるとどうしても一泊になってしまうことも原因の一つとして考えられる。同時に費用のことも考えなければならない。家族、グループが圧倒的に多く、かかる費用のことも考えれば一泊ということになるのかもしれない。しかしながら、滞在型施設にしていくための具体的努力も必要であろう。

地域別利用者については、

表4 地域別利用者（1998年度あるいは1999年度）

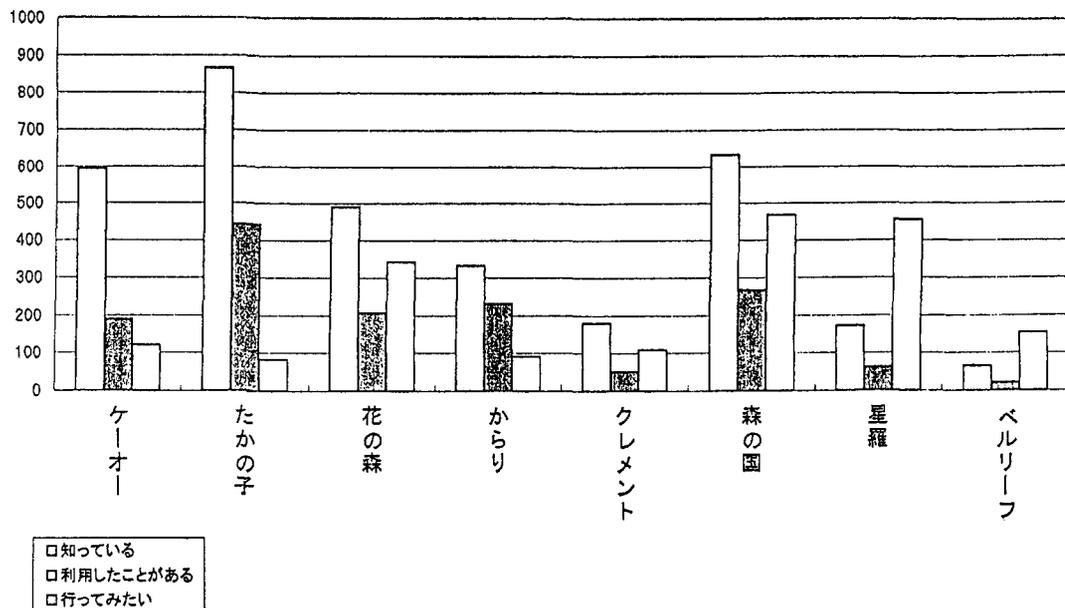
	九州	四国	中国	関西	東北	北海道	関東	中部	その他
ケオホテル	9.3	17.5	25.7	25.2	1.0	0.2	12.4	8.7	—
星羅四万十	3	50	16	13	—	—	15	3	—
森の国	2	47	26	15	—	—	10	3	—
花の森	5	70	7	11	—	—	4	2	1
鷹の子温泉	12	24	52	12	—	—	—	—	—

(単位：%)

四国からの利用者が圧倒的であるが、「しまなみ海道」開通による影響が愛媛県東予・中予地域にある施設（ケオホテル、たかの子温泉）に出ており、中国・関西からの利用者比率に表れている。今後の集客の力点としては中国、関西、九州、関東方面への広報活動であろう。2000年7月2日から7日松山市内の一番の繁華街である「銀天街」において「ルーラルポケット」ふれあいキャンペーンを実施し、アンケートにおける各施設の認知度と利用

希望を調査したのが表5である。

表5 松山市における認知度と潜在的顧客状況<sup>6)</sup>



#### 4. 結論

本研究では西四国ネットワーク「ルーラルポケット」構成施設に対するアンケート及び面接調査を実施した。本来宿泊事業が成立するためには最低限度の宿泊客室、あるいはその施設（地方）にしかない特色、施設設置のためのコンセプトがあるはずである。特にリゾートブームが失敗に終わった今、それに代わるものとしての自然との共生型施設が求められていることは紛れもない事実である。ルーラルポケット構成施設がその役割を担うことは間違いないのだが、日本人のツーリズムマインドの変革なくしてそれはありえない。また同時にそれを実現しようと思えば、経営指針に対する思い切った転換を余儀なくされる。ルーラルポケットが五つもの公的機関が参入しているのもそのためだと思われる。

<引用・参考文献>

- 1) 本間義人「国土計画を考える」 中公新書 P 105～136 1999年
- 2) リゾート・ゴルフ場問題全国連絡会「検証・リゾート開発」 緑風出版 P 158～186 1998年
- 3) 愛媛新聞「南レク事業の見直し」 愛媛新聞社 2000年8月30日記事
- 4) 愛媛県 第5次愛媛県長期計画「新しい愛媛づくり指針」 P 123 2000年
- 5) 農林水産省「新しい食料・農業・農村政策の方向」  
地域全体の所得の維持・確保 1992年
- 6) 西四国観光ネットワーク「るーらるぽけっと」主催「るーらるぽけっと ふれあいキャンペーン」(2000年7月2日～7日：実施)